

# 展望

## OFFICIALMATCH DAY PROGRAM

NO.4

発行:一般財団法人 全日本大学サッカー連盟

◆準々決勝◆ 12月13日(日) 試合結果

- ◇味の素フィールド西が丘 【17】 阪南大 3(延長)2 大体大 【18】 早大 1-4 国士大
- ◇町田市立陸上競技場 【19】 明大 3(5PK)3 順大 【20】 流経大 1(延長)2 関学大

1回戦	2回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準決勝	準々決勝	2回戦	1回戦	
12.8(火)	12.10(木)	12.13(日)	12.16(水)	12.19(土)	12.16(水)	12.13(日)	12.10(木)	12.8(火)	
早稲田大学 関東①								関西学院大学 関西①/総理大臣杯優勝	
高知大学 四国	BMWス 4 13:30					3 2	夢の島 13:30	札幌大学 プレーオフ	
愛知学院大学 東海②	相模原 2 10:50					3 2	町田 13:30	九州産業大学 九州③	
桃山学院大学 関西③		味フィ西 1 13:30				2Ex 1Ex	町田 13:30	常葉大学 浜松キャンパス 東海①	
北海道教育大学 岩見沢校 北海道	相模原 2 13:15					2Ex 3Ex	夢の島 11:00	北陸大学 北信越	
国士舘大学 関東⑤		BMWス 2 11:00						流通経済大学 関東④	
阪南大学 関西②			BMWス 4 13:00	浦和駒場 12:00	NACK5 13:00			福岡大学 九州①	
福山大学 プレーオフ		江戸陸 2 11:00					1 2	川口 10:50	
鹿屋体育大学 九州②	柏の葉 1 11:00						3 1	ゼット エー 11:00	
大阪体育大学 関西⑤		味フィ西 3Ex 11:00				3PK4 3PK5	町田 11:00	大阪学院大学 関西④	
IPU・ 環太平洋大学 中国	柏の葉 2 13:30							2 3	ゼット エー 13:30
慶應義塾大学 関東③		江戸陸 1 13:30					0 3	川口 13:15	仙台大学 東北
									中京大学 東海③
									明治大学 関東②

浦和駒場:浦和駒場スタジアム/BMWス:Shonan BMW スタジアム 平塚/NACK5:NACK5スタジアム大宮  
 味フィ西:味の素フィールド西が丘/町田:町田市立陸上競技場/江戸陸:江戸川区陸上競技場  
 夢の島:江東区夢の島競技場/川口:川口市青木町公園総合運動場/相模原:相模原ギオンスタジアム  
 柏の葉:千葉県立柏の葉公園総合競技場/ゼットエー:ゼットエーオリプリスタジアム

# 明治大学 vs 関西学院大学

12月16日(水) 13:00  
NACK5

総理大臣杯の決勝と同カードとなった準決勝の明治大対関西学院大戦。夏の対戦では関学大に0-2と完敗を喫し、「2位で終わって率直にくやしい」(栗田大輔監督)という明治大にとっては雪辱をはたす絶好のチャンスだ。一方、前の試合で流通経済大に1年ごしのリベンジを成功させた関学大は、立場変わってリベンジを“受ける”側になる。

準々決勝では、両チームとも90分で決着がつかずに延長、PK戦までもつれこんだ。明治大は、順天堂大に3度追いつかれながらPK戦で辛うじて準決勝に駒を進めた。3失点という数字は、「いい守備からいい攻撃へ」をモットーとする明治大しからぬ数字のように思えるが、栗田監督は「どう詰めていくかという問題はあるが」と前置きしながらも、「コンパクトなライン設定は間違っていないかと思う」と振り返る。3点のうち2点がセットプレーからの得点とはいえ、それ以外にも多く決定機が作れているのは好材料。総理杯の決勝では「決定機の差が勝負の分かれ目」だっただけに、「精度は求めなければならないが、縦パスのつながりからゴールを狙うというサッカーもできていた」と、手応えを感じている様子だ。エースのFW和泉竜司(4年)も2試合連続得点と好調で、「相手にとって怖い選手になれなかった」(和泉)という夏のリベンジを狙う。

一方、関学大は先制点を許しながらも終盤に追いつき、延長戦で逆転勝利を収めた。昨年のインカレ決勝では「失点して慌てて選手交代して負けた」(成山一郎監督)が、今年はその教訓を活かし、失点後に投入したMF森信太郎(4年)がアクセントとなり、FW呉屋大翔(4年・G大阪内定)の同点弾をお膳立てした。前半はなかなかチャンスを作れなくとも焦ることなく、後半からの選手起用とポジションの修正でしっかり結果を出したところは、さすが“夏の王者”。エース呉屋の得点力はもちろんだが、個の力でゴール前までボールを運ぶことのできるMF小林成豪(4年・神戸内定)が中盤を圧倒できれば、関学大に死角を見つけることは難しいだろう。

(文・飯嶋玲子)

	1 服部		明大
14 早坂	3 山越	5 小出	6 高橋
	7 差波	16 柴戸	
9 瀬川			17 土居
	10 和泉	11 藤本	
	13 呉屋		
8 小林	9 出岡		11 森(俊)
	14 福富	7 徳永	
16 小川原	3 井筒	15 米原	28 高尾
関学大	1 上田		

# 国士舘大学 vs 阪南大学

12月16日(水) 13:00  
BMW ス

ともに同地区対決を制して準決勝へ駒を進めたが、その戦いぶりは対照的だった。国士舘大は、桃山学院大を相手に苦戦した2回戦とは異なり、充実の内容で関東王者・早稲田大を破った。FW山本真也(4年)とFW松本孝平(3年)の2トップが絶えずプレスをかけて相手に自由を与えず、球際での競り合いでも上回ってペースを掴む。前半に2得点を挙げると、後半には51分にCKから3点目を奪い、勝負を決めた。さらに61分にもFKからDF藤寄智貴(3年)が決定的なヘディングシュートを放ち、最後はこぼれ球をFW松本が蹴り込んで4点目を挙げた。セットプレーから2得点を決め、細田三二監督は「精度の高いボールを蹴っている」とMF荒木翔(2年)を評価。準決勝でも、背番号9のキックが1つの突破口になるだろう。関東リーグで22試合19失点の堅守を誇った早稲田大を相手に4得点を奪ったことは自信になるはずだ。「自分たちの良さを出していきたい」と指揮官は語り、DF山田真己人(4年)は「たくさん人の思いを受けて戦っている。絶対に優勝する」と力を込めた。高いモチベーションを糧に、準々決勝で作った良い流れを持続していきたい。

一方、大阪体育大と対戦した阪南大は、59分に相手に退場者が出て数的優位に立ったものの、90分間では決着をつけられず。延長前半に1点を勝ち越したが追いつかれ、107分に挙げた3点目で何とか勝ち切った。とはいえ、108分に2人目の退場者を出した相手に最後まで苦戦し、あわや同点という場面も作られた。須佐徹太郎監督は「このレベルでは正直厳しい……。修正できる部分はしっかりと直さないと」と、苦笑いしつつ振り返った。「もっと落ち着いてパスを回して、相手をいなさないといけない」という指揮官の言葉を受け、MF松下佳貴(4年・神戸内定)を軸としたミドルゾーンがポゼッションで優位に立ち、主導権を握っていききたい。2試合連続2得点と好調を維持しているFW前田央樹(3年)に注目だ。延長戦を戦い終えた後、中2日で迎える準決勝。コンディションの調整も大きなカギになるだろう。

(文・内藤悠史)

	1 奥津		国士大
2 山田	3 福田	13 附木	6 藤寄
10 高見	19 諸岡	7 平野	9 荒木
	16 松本	11 山本	
	13 前田	19 松尾	
9 八久保	16 岡部	14 松下	8 重廣
34 金	4 大野	5 甲斐	3 康
阪南大	1 大西		